



短期の栄養評価に有用なRTPについてもっと知ろう

今回は、中・長期的な栄養状態の把握に有用なアルブミンよりも、より**短期**の栄養評価に有用な**RTP**についてご紹介します。

実施した栄養療法の効果を、早期に判定することにもつながります。

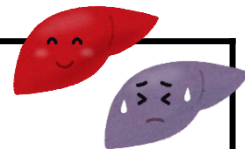
RTPはRapid Turnover Protein の略で、RTPの種類には

『**トランスサイレチン（プレアルブミン）**』 『**トランスフェリン**』
『**レチノール結合タンパク**』があります。

アルブミンと同様に肝臓で合成されるタンパク質で、血中の半減期が短く代謝も早いので、**短期間（0.5日～7日）での栄養状態の評価**に用います。

※アルブミンの半減期は21日

<p>トランスサイレチン（プレアルブミン） 【半減期：2～3日】</p>	<p>栄養状態や肝障害の早期診断に役立つ指標。栄養状態を最も反映するタンパク質で、そのほとんどが肝臓で合成される。血中濃度は肝臓でのタンパク合成能の指標になる。</p> <p>上昇：腎機能障害時 低下：肝硬変や肝炎、甲状腺機能亢進症</p>
<p>トランスフェリン 【半減期：7～10日】</p>	<p>鉄の輸送タンパクで半減期が短いため、栄養状態を感度よく早期に表す。肝臓で合成されるタンパク質で、血清鉄のキャリアタンパク質としてヘモグロビンの合成や鉄代謝に関与。</p> <p>上昇：慢性失血、鉄欠乏性貧血 低下：慢性感染症や肝硬変、鉄過剰症、ネフローゼ症候群</p>
<p>レチノール結合タンパク 【半減期：12～14時間】</p>	<p>半減期が12～14時間と短いため、短期間の栄養状態の変動を捉える有用な指標。主に肝臓で生成される。腸管より吸収されたレチノールはいったん肝臓に貯蔵され、レチノール結合タンパクと結合して血中に分泌される。</p>



※尚、『**トランスサイレチン**』や『**トランスフェリン**』は炎症においても減少するため、栄養評価において炎症によるものか否かの鑑別のために、炎症マーカーである『**C-反応性タンパク（CRP）**』の同時測定が薦められています。

いずれも、外注でオーダー可能です

